

はばたく新潟 時の人

「新潟・山田錦栽培会」会長
岩渕 忠男氏



「獺祭」向け酒米、収量追わず

新潟県内の農業関係者が
「新潟・山田錦栽培会」を
2月に発足させた。主に西
日本で栽培されている酒造

経験者などに話を聞くこと
ができ、今ならできるので
はと励まされた」

挑戦する農家 育成待ったなし

彼らにチャレンジする姿を
見せる意味もある。チャレンジしない農業で
は次の担い手が生まれてこ
ないのだろう。新潟県の基
幹的農業従事者の平均年齢
は全国平均よりなお高い67
歳(2010年)。挑戦する農家の育成は急務
だ。(水口博毅)

た。買い取るのは「獺祭(だ
っさい)」で知られる山口
県岩国市の旭酒造。社長の
本を読み、苦しい経営状況
からここまで成長させたと
いうことを知って感銘を受
け、山田錦栽培にチャレン
ジしようと決めた」

「栽培に際して気をつ
くべくするため肥料を抑え
めにした。それでも10ヶ月當
たりの収穫は(玄米で)6
㌧(1俵は60kg)。もきれいだた。
おそれなくして、おもろく
めには同じように山田錦を
栽培している他県との競争
は全国平均よりなお高い67
歳(2010年)。挑戦する農家の育成は急務
だ。(水口博毅)

「1等米を7割以上」目標

——なぜ山田錦を栽培す
けたことは。

「私自身、他品種の酒米
を作った経験はあるが山田
錦は初めて。西日本で作ら
れている」といえ、新潟の
——品質はどうですか。

好適米「山田錦」を県内で
作り10月には収穫にこぎ
つけている。これまで新潟
であり作られてこなかつ
ても価格が下がるだけだ。
売れる米を作りたいと思つ
じ方法を持ち込んでうま
くはいかない。ただ、かつ
て新潟で山田錦を栽培した
に話を聞いた。

コシヒカリだと8・5~9
0俵強が収穫できた」

「しかし来年以降は分か
少ないものの、思ったより
多い」

「主力のコシヒカリやコ
シイグキは売れずに余って
いる。そのため品種を作つ
れている」といえ、新潟の
氣候風土を考えると全く同
じ方法を持ち込んでうま
くはいかない。ただ、かつ
て新潟で山田錦を栽培した
に話を聞いた。

「まだ全部の検査は終わ
らない。高温になった場合
など条件が変わった時にど
うなるか、これから勉強し
ており、国内需要よりも成
長が期待できる輸出用原料
を作ることになる。評価
が得られれば他の酒蔵への
出荷も可能になる」

体では300
——県内のコメ農家は嚴
しい環境にあります。

「売れるコメを作らない
と專業農家は生き残れない
が、山田錦は需要が伸びて
いる。日本酒は輸出も増え
るようにしたい。新潟で作
る9割に達している。実
る山田錦が評価されれば需